

ジグノシステムジャパン 2008年3月期本決算報告



IS84139/ISO(JIS Q)27001

	ページ
1. 決算概況ハイライト	3
2. 連結・単体の売上高・営業利益について	4
3. 決算概況	5
連結損益計算書	
単体損益計算書	
連結貸借対照表	
キャッシュフロー計算書	
セグメント別売上高・営業利益(前年比較)	
4. セグメント別営業概況	10
インフォメーションプロバイダー事業	
インフォメーションプロバイダー事業 ユーザー数推移	
インフォメーションプロバイダー事業 フィルタリングに対する当社の対応	
ソリューション事業	
映像・音楽制作事業 (サーティースグループ・オニオン・エフエムサウンズ)	
その他の事業 (コマース事業)	
5. 2009年3月期業績予想(通期)	16
6. (株)エフエム東京による公開買付けについて	17
7. 今後について	21
【参考】 会社概要、資本相関図	22

< 総括 >

エフエム東京グループ各社と連携し、モバイルおよびPC向けインターネットコンテンツを基軸として、放送をはじめ複数のメディアと連動したサービスを企画から制作まで総合的にプロデュースするクロスメディアサービスを展開。

エフエム東京グループの経営資源を活用した制作基盤の拡充および業務の合理化、コア事業への経営資源集中による事業の最適化を進めた。

2008年3月に、(株)エフエム東京による当社株式等に対する公開買付けに賛同。

セグメント概況ハイライト

< インフォメーションプロバイダー事業 >

成長トレンドにあるきせかえツール、電子書籍等のリッチコンテンツを拡充したことにより、従量課金型ユーザーが堅調に推移。

一部不採算サイトを整理し、成長サイトにリソースを集中することで収益の改善を図った。

< 映像・音楽制作事業 >

(株)オニオンが順調に業績を伸ばした一方、(株)サーティース、(株)ネクサスフィルムスは新規事業の不振等により、減益。

グループ再編の一環として、2007年12月にラジオ番組制作会社である(株)エフエムサウンズをグループ会社化し、制作基盤の拡充を図った。

< ソリューション事業 >

モバイルサイト開発における技術力をベースに、モバイルサイト・PCサイトと連動した法人向けクロスメディアプロモーション企画に注力。

2007年10月よりティーエフエム・インタラクティブ(株)と戦略的業務提携を開始したことにより、モバイルのみならずブロードバンド分野まで領域を拡大させたサービス展開を可能とする基盤を築いた。

< その他の事業 (コマース事業) >

事業を縮小し、コスト削減に努めてきたが黒字転換に至らず、2008年1月を以って事業を休止。

2. 連結・単体の売上高・営業利益について

<連結>

(株)エフエムサウンズをグループ会社化したことにより、前年比+3.8%の増収。一方、映像・音楽制作事業において不採算事業を整理したことによる減収および整理コストの発生等により、前年比-49.2%の減益となった。

<単体>

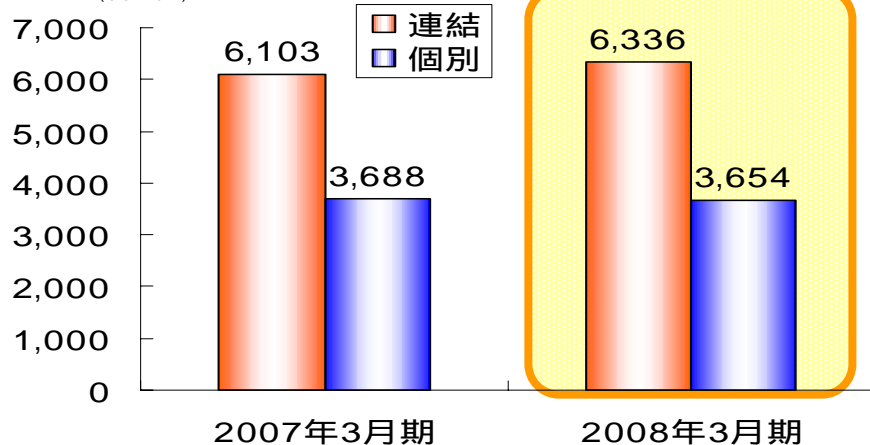
インフォメーションプロバイダー事業における従量課金型サイトの成長、ソリューション事業における事業領域の拡大等、プラス要因があったものの、売上は前年比-0.9%と微減。一方、営業利益は+4.3%となった。

2008年3月期（2007年4月～2008年3月）業績の動向

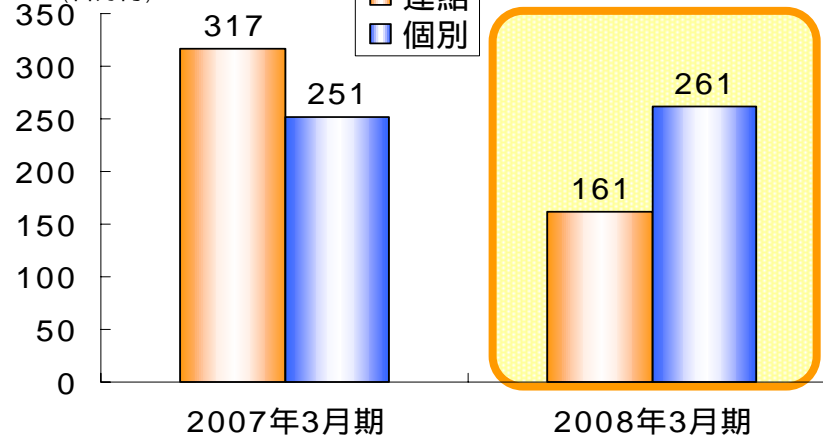
売上	2007年3月期	2008年3月期	前年比
連結	6,103百万円	6,336百万円	103.8%
単体	3,688百万円	3,654百万円	99.1%

営業利益	2007年3月期	2008年3月期	前年比
連結	317百万円	161百万円	50.8%
単体	251百万円	261百万円	104.3%

(百万円)



(百万円)



3. 決算概況

連結損益計算書

(百万円)

	2007年3月期		2008年3月期		前年比
		売上比		売上比	
売上高	6,103	100.0%	6,336	100.0%	103.8%
売上原価	4,129	67.7%	4,533	71.5%	109.8%
売上総利益	1,973	32.3%	1,803	28.5%	91.4%
販売費及び 一般管理費	1,655	27.1%	1,641	25.9%	99.2%
営業利益	317	5.2%	161	2.5%	50.8%
経常利益	330	5.4%	176	2.8%	53.3%
特別損益	176	-	423	-	-
当期純損失	66	-	368	-	-

特別利益： 23百万円
特別利益の主たる要因は
投資有価証券売却益です。

特別損失： 447百万円
特別損失の主たる要因は、
中間期に発生したのれん代
323百万円、映画制作向け
の出資金に対する出資金
損失引当金105百万円です。

3. 決算概況

単体損益計算書

(百万円)

	2007年3月期		2008年3月期		前年比
		売上比		売上比	
売上高	3,688	100.0%	3,654	100.0%	99.1%
売上原価	2,291	62.1%	2,229	61.0%	97.3%
売上総利益	1,396	37.9%	1,425	39.0%	102.1%
販売費及び一般管理費	1,145	31.1%	1,163	31.8%	101.6%
営業利益	251	6.8%	261	7.1%	104.0%
経常利益	273	7.4%	276	7.6%	101.1%
特別損益	459	-	559	-	-
当期純損失	282	-	427	-	-

特別利益： 23百万円
特別利益の主たる要因は
投資有価証券売却益です。

特別損失： 582百万円
特別損失の要因は、中間期に
発生した国内子会社における
関係会社株式評価減477百
万円、映画制作向けの出資金
に対する出資金損失引当金
105百万円です。

3. 決算概況 連結貸借対照表

(百万円)

主な科目	2007年3月期	2008年3月期	増減
< 資産の部 >			
流動資産	7,414	7,995	581
現金・預金	5,479	5,983	504
受取手形及び売掛金	1,606	1,639	33
その他	329	373	44
固定資産	2,444	1,501	943
有形資産	301	249	52
無形資産	410	92	318
投資その他	1,733	1,159	574
資産合計	9,859	9,496	363
< 負債の部 >			
流動負債	1,173	1,354	181
買掛金	768	786	18
その他	405	568	163
固定負債	32	32	0
負債合計	1,206	1,387	181
< 純資産の部 >			
株主資本			
資本金	3,345	3,345	-
資本剰余金	3,272	3,272	-
利益剰余金	1,760	1,251	509
自己株式	-	20	20
株主資本合計	8,378	7,849	529
評価・換算差額等合計	25	12	13
少数株主持分	248	246	2
純資産合計	8,652	8,109	543
負債純資産合計	9,859	9,496	363

中間期にのれん代の一部、
323百万円を一括償却したこと等
により、減少。

3. 決算概況 キャッシュフロー計算書

(百万円)

主な項目	2007年3月期	2008年3月期	増減
営業活動によるキャッシュフロー	359	170	189
税金等調整前当期純利益又は 純損失(損失:)	154	246	400
減価償却費	112	108	4
減損損失	70	323	253
売上債権の増減額(増加:)	103	42	145
仕入債務の増減額(減少:)	21	18	3
その他	159	38	121
法人税等の支払額	54	113	59
投資活動によるキャッシュフロー	689	509	1,198
定期預金の預入・払戻	500	500	1,000
投資有価証券の取得・売却・払戻	15	55	70
その他	174	46	128
財務活動によるキャッシュフロー	168	192	24
株式発行による収入	5	-	5
配当金の支払額	138	139	1
長期借入金の返済による支出	34	31	3
自己株式の取得による支出	-	20	20
現金及び現金同等物の増減額(減少:)	489	485	974
現金及び現金同等物の期首残高	5,168	4,679	489
現金及び現金同等物の期末残高	4,679	5,164	485

2008年3月期 (2007年4月～2008年3月)

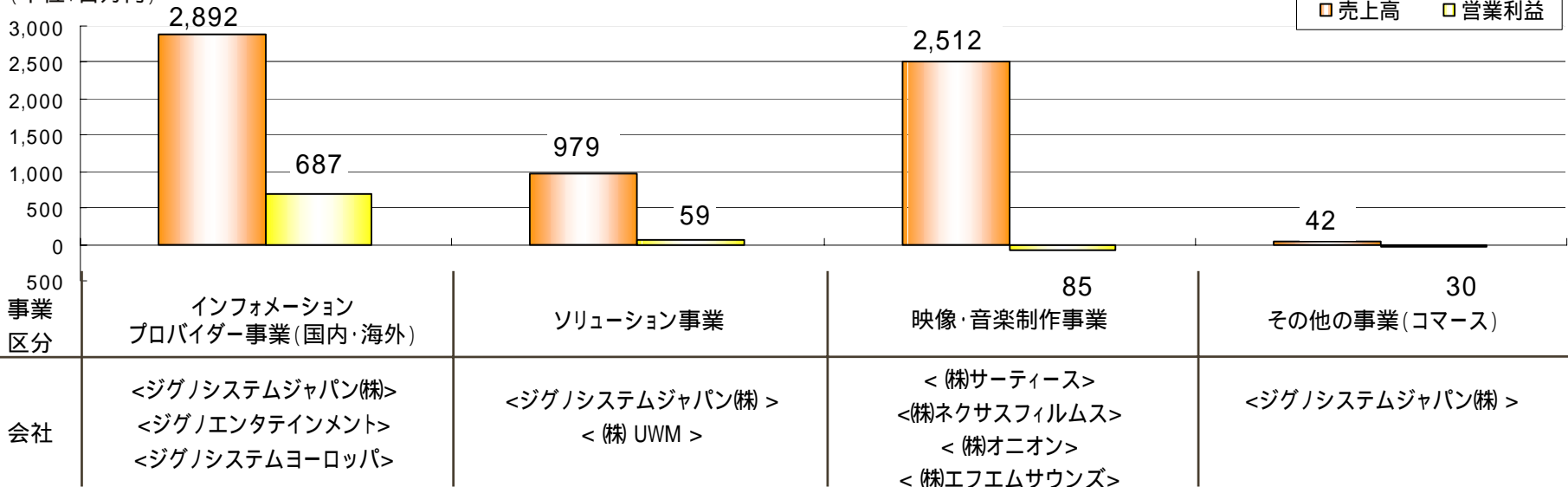
(単位:百万円)

事業別売上高	2007年3月期	2008年3月期	前年比
インフォメーションプロバイダー事業	3,034	2,892	95%
ソリューション事業	618	979	158%
映像・音楽制作事業	2,203	2,512	114%
その他の事業(コマース)	309	42	13%
合計	6,164	6,425	104%

内部取引消去前の数値です。

事業別売上高・営業利益 (2007年4月～2008年3月)

(単位:百万円)



数値および%は単位未満切捨て表示です。
 ジグノ単体の各事業の営業利益は全社費配賦前の数値です。
 サーティースグループ内の取引は相殺されております。

4. セグメント別営業概況

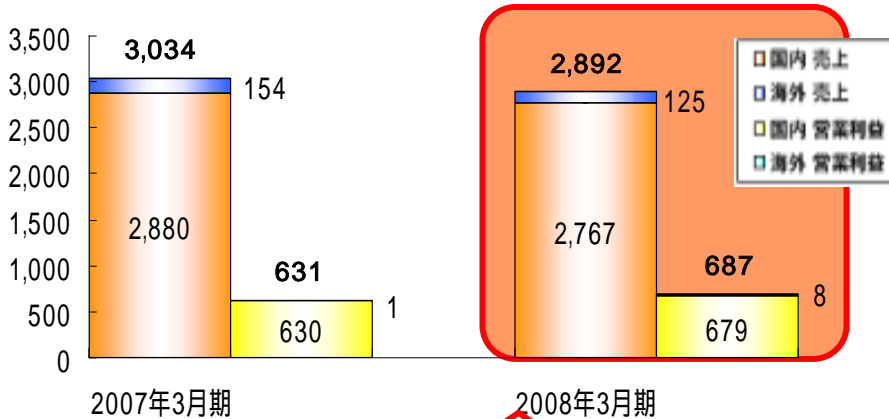
インフォメーションプロバイダー事業

(百万円)

	2007年3月期	2008年3月期	前年比
売上	3,034	2,892	95%
営業利益	631	687	108%

(百万円)

海外の数値を含みます。



2008年3月期の実績

従量課金型のリッチコンテンツサイト強化に注力し、コスト削減や一部不採算サイトの整理等を実施することで、収益力の向上に努めた。

売上高 : 前年比5%減。国内に関しては上期から下期にかけて微増。

営業利益 : 前年比8%増。

下期を中心に、成長軌道にあるきせかえツールサイト、電子書籍サイト等の新規立上げを実施し、リッチコンテンツの拡充を図った。

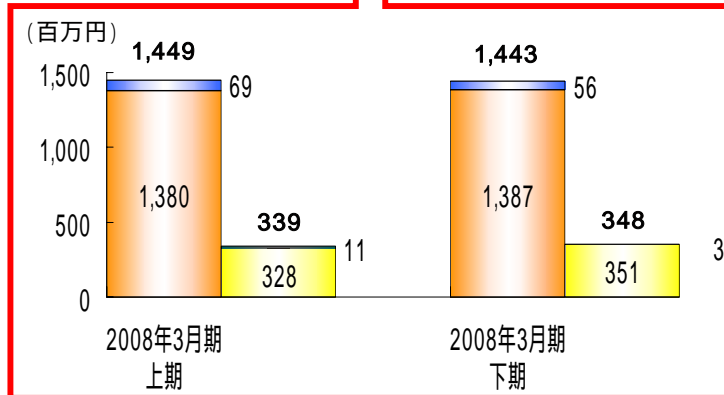
- 2007年11月 男性向けデザインをメインとしたきせかえサイト
- 2007年12月 人気グラビアアイドルの写真集を提供する電子書籍サイト
- 2008年 3月 幅広いユーザー層から支持を受けている『セットアップLab』をソフトバンクモバイル公式サイトとしてオープン。

2009年3月期の取り組み

市場のニーズにマッチしたサービスおよび新規サービスに対応したサイトを中心に新規サイトの拡充を図る。

引き続きコスト削減、不採算サイトの整理等を実施し、重点サイトにリソースを集中させることで収益の向上を図る。

プロモーション実施等により、新規ユーザーの獲得、拡大を目指す。

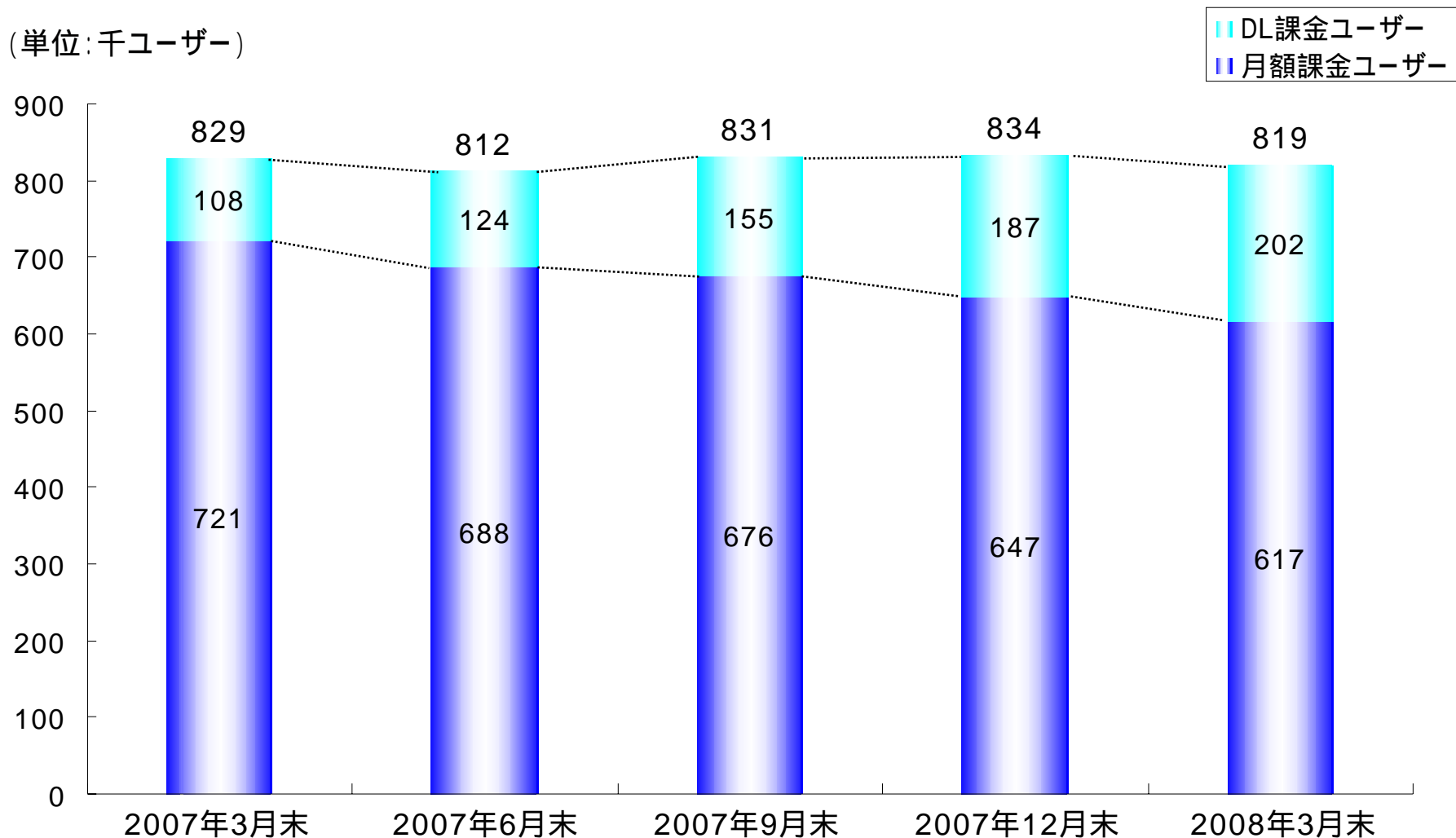


数値は単位未満切捨て表示です。
 全社費配賦前数値です。
 海外の数値は内部取引消去前の数値です。

4. セグメント別営業概況

インフォメーションプロバイダー事業 ユーザー数推移

(単位:千ユーザー)



市場のトレンド変化に伴い、月額課金ユーザーは減少傾向。一方、きせかえツールや電子書籍等のリッチコンテンツが牽引し、ダウンロード課金ユーザーが堅調に推移している。

4. セグメント別営業概況

インフォメーションプロバイダー事業 フィルタリングに対する当社の対応

< 携帯電話事業者等のフィルタリングサービスに対する動き >

社団法人電気通信事業者協会(以下「TCA」)に加盟している携帯電話・PHS事業者4社(NTTドコモグループ、KDDIグループ、ソフトバンクモバイル、ウィルコム)は、かねてよりフィルタリングサービス(有害サイトアクセス制限サービス)を提供してきたが、昨年12月に総務大臣からの要請を受け、フィルタリングサービスの普及促進を強化することを発表。さらに今年4月にはフィルタリングサービスの改善などに関する総務大臣要請を踏まえ、フィルタリングサービスの改善および普及促進に取り組む旨を発表。

当社の基本方針

各携帯電話事業者等のガイドラインに基づき、自主的にサイト倫理綱領およびコンテンツガイドラインを設け、倫理基準を守り、有害なコンテンツを掲載・提供しない。

従来よりの各携帯電話事業者等のガイドラインに基づいたサイト運営に加え、自社独自のサイト倫理綱領およびコンテンツガイドラインを設け、自主的にサイトの健全性維持を図る。

今後の取り組み

新たなサービスジャンルを開拓し、若年層のみならず、幅広い年齢層をターゲットとしたサービスの拡充を図る。

フィルタリングサービスの強化をチャンスととらえ、新しいサービスジャンルに挑戦することで、モバイル業界の変化に対応していく。

4. セグメント別営業概況

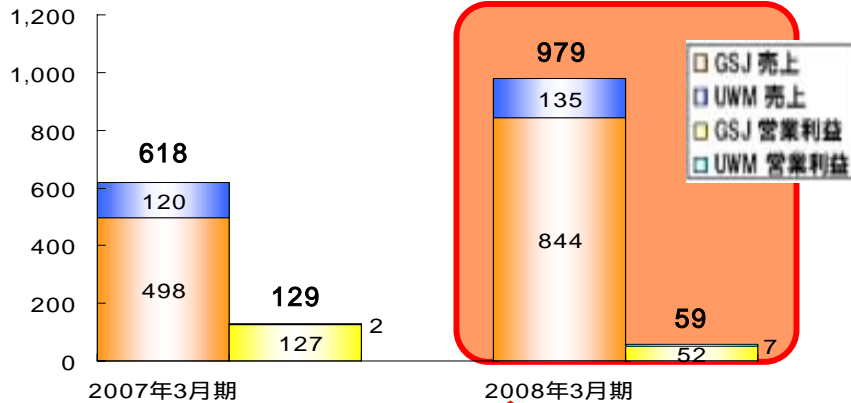
ソリューション事業

(百万円)

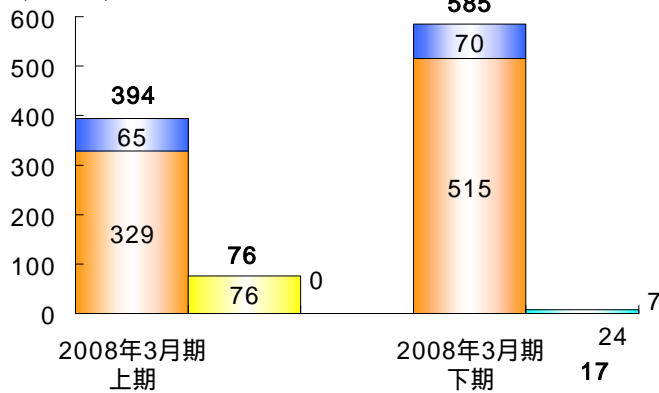
	2007年3月期	2008年3月期	前年比
売上	618	979	158%
営業利益	129	59	45%

UWMの数値を含みます。

(百万円)



(百万円)



数値は単位未満切捨て表示です。

全社費配賦前数値です。

UWMの数値は内部取引消去前の数値です。

2008年3月期の実績

モバイルサイト制作受託等、従来のモバイルソリューションが堅調に推移。さらに、携帯サイト開発における技術力をベースに、携帯サイト・PCサイトと連動した法人向けクロスメディアプロモーション企画の提案に注力した結果、売上が前年比58%増となった。

2007年10月よりエフエム東京グループのPC向けブロードバンドメディア事業会社であるティーエフエム・インタラクティブ(株)と戦略的業務提携を開始。

営業体制を強化。

モバイルのみならず、ブロードバンドの領域を視野に入れたクロスメディアサービスの提供が可能となった。

(株)UWMにおいては、着メロ・着うた(R)等の楽曲コンテンツに加え、電子書籍を配信コンテンツに加えたことで、売上、営業利益ともに堅調に推移。

2009年3月期の取り組み

プロモーションの企画をはじめ、webコンテンツ制作からTOKYO FMでのラジオスポットCM展開まで一括受託可能な体制をベースに、効果的なクロスメディア提案を実施していく。

(株)UWMにおいては、電子書籍コンテンツを拡充するとともに、配信コンテンツのラインナップを強化し、モバイルのみならず、さまざまなプラットフォームでの配信を目指す。

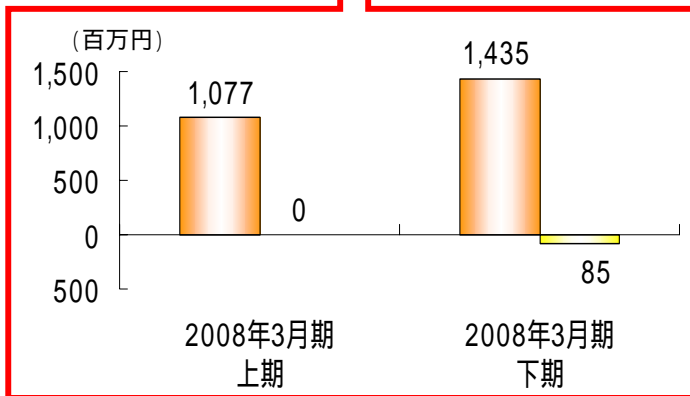
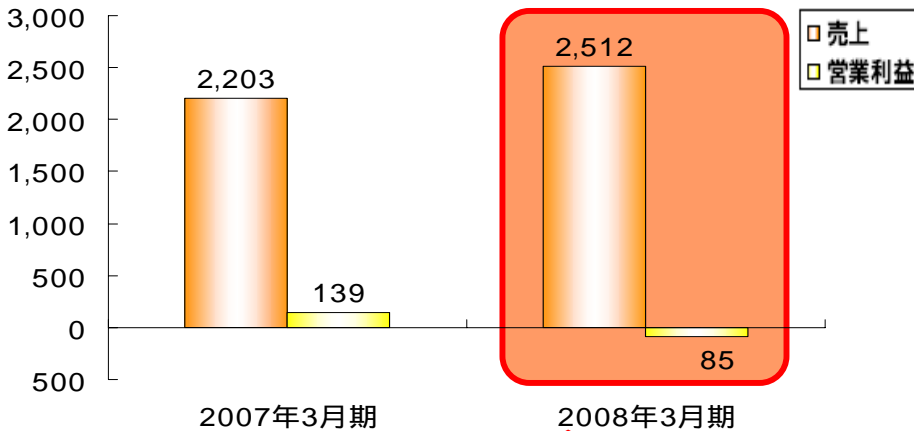
4. セグメント別営業概況

映像・音楽制作事業 (サーティースグループ・オニオン・エフエムサウンズ)

(百万円)

	2007年3月期	2008年3月期	前年比
売上	2,203	2,512	114%
営業利益	139	85	-

(百万円)



数値は単位未満切捨て表示です。
内部取引消去前の数値です。

2008年3月期の実績

テレビCM等の映像制作会社である(株)オニオンは順調に業績が推移。一方、(株)サーティースにおいては主力のCM音楽企画制作は堅調であったものの、新規事業における先行投資が回収できなかったこと、および同社子会社である(株)ネクサスフィルムの不振により減益となった。

売上に関しては、(株)エフエムサウンズをグループ会社化したこと等により、前年比14%増となった。

不採算事業の整理、コスト削減、グループ再編を含む相互協力体制の強化を図り、制作基盤の拡充を行った。

エフエム東京グループのラジオ番組制作会社である(株)エフエムサウンズをグループ会社化。

2009年3月期の取り組み

引き続き、安定収益構造への転換を目指し、不採算事業の整理、グループ内相互協力体制の強化を図る。

グループシナジーにより、事業の拡大を目指す

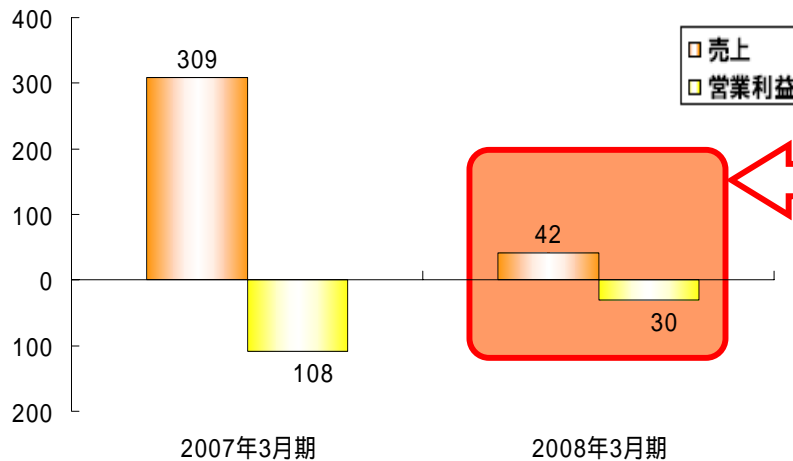
4. セグメント別営業概況

その他の事業 (コマース事業)

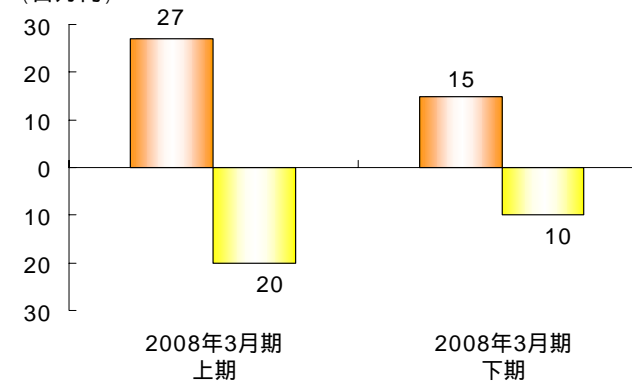
(百万円)

	2007年3月期	2008年3月期	前年比
売上	309	42	13%
営業利益	108	30	-

(百万円)



(百万円)



数値は単位未満切捨て表示です。
 全社費配賦前数値です。

不採算サイトを整理し、(株)エフエム東京との放送連動コマースビジネスへの一本化を図るなど、事業の縮小・コスト削減に注力してきたが、黒字転換に至らず、コア事業への経営資源の集中という観点から、2008年1月を以って一旦休止。

5. 2009年3月期業績予想(通期)

【連結】 2009年3月期通期業績予想 (2008年4月1日～2009年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2009年3月期	7,803	257	263	135
【参考】 2008年3月期(実績)	6,336	161	176	368

【単体】 2009年3月期通期業績予想 (2008年4月1日～2009年3月31日)


(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2009年3月期	5,023	162	177	102
【参考】 2008年3月期(実績)	3,654	261	276	427

当社の現状について

2004年10月 (株)エフエム東京と資本業務提携締結

放送事業者との携帯電話サービス連動展開を目指す



グループシナジーを活かしたビジネスモデルの
創造と具現化にドライブフォースをかけるべく…

2007年10月 ティーエフエム・インタラクティブ(株)との戦略的業務提携

放送とインターネット等を連動させたクロスメディア展開を推進



インターネット総合プロデュース企業として、エフエム東京グループを率いていくためには、クロスメディア展開をさらに加速させる必要がある。

(株)エフエム東京による公開買付けに賛同した理由

変動著しい市場環境において当社のさらなる成長を目指し、エフエム東京グループとともに取り組んできた、クロスメディア展開をさらに推進するためには、(株)エフエム東京の完全子会社となり、相互の事業の連携をさらに深め、グループとして相乗効果を追求することが最善であると判断したため。

<当社が(株)エフエム東京の完全子会社となった場合のメリット>

- ◆ 当社の意思決定におけるスピードアップができ、経営の迅速化を図ることができる。
- ◆ グループ内再編を通じて、さらに高度なサービスが顧客に提供できるようになる。
 - ・クロスメディア機能の統合によるグループ内競争関係の解消
 - ・グループ内再編に伴う会計・経理システムの統合
 - ・広告営業部門の一層の強化等
- ◆ 新たな市場を開拓することによって当社の企業価値を一層向上させることができる。

取り組むべき課題

- ◆ エフエム東京およびエフエム東京グループ各社の経営資源を当社へ投入
- ◆ グループ内に重複して点在している業務を集約
- ◆ グループ内再編を実現しうるシステム等の先行投資
- ◆ 当社およびティーエフエム・インタラクティブ(株)のコンテンツ事業部門のさらなる融合
- ◆ 当社およびティーエフエム・インタラクティブ(株)の事業のプロデュース・販売を担当する広告営業部門の一層の強化



エフエム東京グループにおける、放送と連動したPCおよび携帯電話向けインターネットコンテンツのプラットフォーム会社を目指し、当社およびエフエム東京グループの企業価値最大化を図る。

当社は、2008年3月6日開催の当社取締役会において、(株)エフエム東京による当社株券等に対する公開買付けに関して、本公開買付けを含む当社を完全子会社化するための一連の取引が、当社の今後の中長期的な企業価値の向上に資するものであることから、公開買付けに賛同いたしました。

公開買付けの内容および結果

< 期間 > 2008年3月7日～2008年4月18日 (30営業日)

< 買付け価格 > 1株あたり16,500円

< 結果 > 当社の発行済み株式総数(466,300株)に対する所有割合
53.61%(250,000株) 95.66%(446,060株)

< 決済開始日 > 2008年4月28日

< 今後の予定 >

(株)エフエム東京は、本公開買付けにより、当社が保有する自己株式を除いた当社普通株式及び新株予約権のすべてを取得できなかったことから、(株)エフエム東京を完全親会社、当社を完全子会社とする株式交換(なお、(株)エフエム東京は非上場で株式譲渡制限会社であることから、対価として金銭を交付する予定。)を行うことを要請し、(株)エフエム東京を除く当社の株主の皆様に対して当社株式の売却機会を提供しつつ、当社の発行済株式の全てを取得することを予定しております。

エフエム東京グループ

IPユニット

||

グループの成長の
鍵を握るユニット



放送ユニット

||

コンテンツ創造を
牽引するユニット

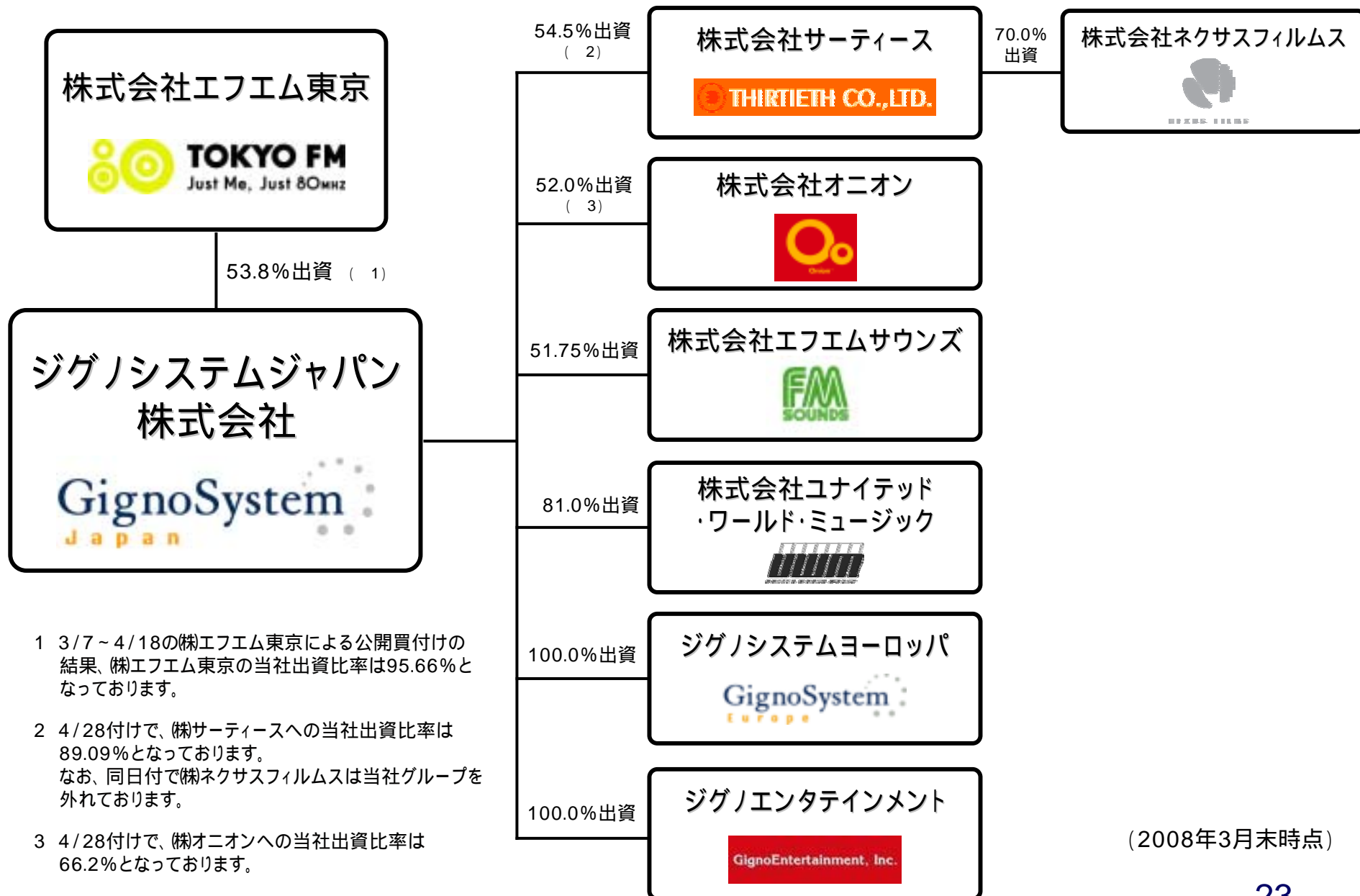


グループシナジーの強化

エフエム東京グループの企業価値最大化へ

放送とインターネット等を連動させたクロスメディア展開の
具現化にドライブフォースをかける。

会社名	ジグノシステムジャパン株式会社
設立	1996年12月
資本金	3,345,562,872円 (2008年3月末日現在)
所在地	東京都千代田区麹町1丁目12番地
事業内容	インフォメーションプロバイダー事業(国内・海外) ソリューション事業 映像・音楽制作事業
グループ会社	株式会社サーティース(子会社：株式会社ネクサスフィルムス) (2008年3月末日現在) 株式会社オニオン 株式会社エフエムサウンズ 株式会社ユナイテッド・ワールド・ミュージック ジグノシステムヨーロッパ(欧州子会社) ジグノエンタテインメント(米国子会社)
人数	(単体) 113名(役員・社員・契約社員・派遣社員含む) (連結) 215名(役員・社員・契約社員・派遣社員含む) (2008年3月末日現在)



- 3/7～4/18の(株)エフエム東京による公開買付けの結果、(株)エフエム東京の当社出資比率は95.66%となっております。
- 4/28付けで、(株)サーティースへの当社出資比率は89.09%となっております。
なお、同日付で(株)ネクサスフィルムスは当社グループを外れております。
- 4/28付けで、(株)オニオンへの当社出資比率は66.2%となっております。

(2008年3月末時点)

本資料および参考資料の内容には、将来に対する見通しが含まれている場合があります。これらの実現については、弊社が継続して事業を展開する上で不可避の潜在的リスクである、経済状況、新サービスの成否、他社との競争状況などの不確実性を含んでおりますので、これら見通しと大きく異なる結果となり得ることをご了承下さい。

本資料、および参考資料において使用される商標は、関係各社の商標、または登録商標です。



～ お問い合わせ先 ～

ジグノシステムジャパン株式会社
経営管理部

TEL: 03 - 3556 - 7737

E - Mail: ir@gsj.bz

～ ジグノIRサイト ～

<http://www.gignosystem.com/ir/index.html>



ジグノIR用携帯電話サイト